

ヒメカメノコテントウ剤 カメノコ S	取扱メーカー： 協友アグリ，住化テクノ 原体メーカー： 住化テクノ
成分： ヒメカメノコテントウ成虫……………100頭／300ml	性状： 亀甲型紋又はセスジ型紋甲虫 毒性： —— 消防法： ——

【品目特性】……………

- 本剤はアブラムシ類を捕食する天敵ヒメカメノコテントウの成虫を含有する製剤である。
- 日本在来のテントウムシを有効成分としており，作物に定着しやすい天敵である。
- モモアカアブラムシ・ワタアブラムシ・ヒゲナガアブラムシ類など多種のアブラムシに対して高い捕食能力を発揮する。
- 暑さに強く，夏季のハウスでも定着する。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- 本剤は入手後速やかに使用し，使いきる。
- 容器中でヒメカメノコテントウが偏在していることがあるので，使用の際は容器をゆっくり回転させて均一に混在させたのち，所定量を放飼する。
- 10 a 当たり 200～400 頭を目安に放飼する。
- 既にアブラムシ類が多発している場合は，本剤に影響の少ない薬剤を散布し，密度を減らしてから放飼する。

【適用と使用法】……………

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ヒメカメノコテントウを含む農薬の総使用回数
野菜類 (施設栽培)	アブラムシ類	0.5～2頭/株	発生初期	—	放飼	—

- 防虫ネットを併用し，ヒメカメノコテントウがハウス外に逃亡しにくい環境を整える。
- 低温条件下で放飼すると活動が鈍くなるため，管理温度の低いハウスでは冬場の放飼はさけ，秋口や春先に放飼する。

【薬効・薬害等の注意】……………

- アブラムシ類の生息密度が高くなってからの放飼では十分な効果が得られないことがあるため，アブラムシ類のごく発生初期に放飼する。なお，アブラムシ類の発生は均一ではないので，アブラムシ類密度の高い場所へ重点的に放飼することが望ましい。
- ヒメカメノコテントウが天敵として有効な密度を保つため，アブラムシ類の発生初期より 5～7 日間隔で連続放飼することが望ましい。
- ヒメカメノコテントウの活動に影響を及ぼすおそれがあるので，本剤の放飼前後の薬剤散布はさける。
- 共通注意事項 8. 適用作物群に関する注意事項を参照。